



# やかただより

広川町  
全戸配布

第102号  
平成31年4月

## 新しい年度が始まります

新しい年度が始まりました。平成最後の月ということにもなります。この「やかただより」が皆様のお手元に届く頃には、新しい年号が発表されていることでしょうか。私の手元にあるカレンダー、3、4月のところには今上天皇皇后陛下の写眞があります。5、6月のところには新天皇皇后陛下の写眞があります。こういう退位と即位をあらわしたカレンダーは下の写眞です。



## 行啓・行幸啓写真展を開催

新しい時代の幕開けですが、この退位と即位される時に国民の休日も、10連休になります。この時に「稲むらの火の館」では、かつて行啓・行幸啓で御来館された両天皇陛下の写眞展を開催したいと考えています。同じ年に、皇太子殿下が来られた2ヶ月後に天皇皇后両陛下が御来館される施設もたいへん珍しいそうです。その退位・即位の年ですので、あらためて、思い出の写眞展を行ないます。この写眞展は以前、1年間くらい開催していましたので、今回はこのおめでたい10日間に限定して開催いたしますので、どうぞ、皆様もお祝いの気持でご観覧にお越しくください。

## 古民家体験イベントが実施される！！

3月16、17日の両日、町内で「古民家体験 in 広川町2019」濱口梧陵に触れる三大イベントが旧戸田家住宅を中心に開催されました。

「茶粥」「梧陵みたらし団子」がふるまわれた食の体験。和服の着付けをしていただける和装体験と匂い袋作り体験。出世コースと梧陵コースに分かれて歩くまちあるきの体験。盛りだくさんの体験イベントでした。



これまでこうした体験のイベントがなかったためか、予想以上に大勢の方々が参加してく

れました。2日目には途中で雨に降られるというアクシゼントもありましたが、皆さん子ども連れで来られたり、友達同士で催しに参加されたりしていました。和服姿でまちあるきされる姿も風情があって良かったです。

また、初日に日本国際協力センター(JICE)主催でアメリカの中学生が引率の先生を含めて23人が「稲むらの火の館」の見学に来られたの



ですが、その皆さんも帰りに会場へ立ち寄りしました。みたらし団子をもって、喜んでいました。

古民家の多い広川町ですが、これらを活用したまちづくりは楽しいことでもあります。日本遺産の構成文化財をめぐるまち歩きも盛んになって欲しいものです。広川町のまちなかにはたくさんの物語があります。ひょっとしたら、地元に住んでいる人でも知らなかったという話も出てくると思います。そういう話題を求めて、友達と連れ立って散策してみませんか。地元の人が自分達の身の回りを探検するのもおもしろいと思います。

## 『安政聞録』 翻訳文 (その2)

原作・古田 詠処 養源寺蔵

## 二 回

日が明けて五日朝方、風が少し吹き、覆っていた雲を払い、思いがけなく晴天となった。時々海面もいつもよりも穏やかで、情々のようであった。昨日とは雲泥の違いであると、一同安堵の思いをした。闇夜に灯りを得た気持ちが出て、みなそれぞれに家の物を持ち帰る者が大半に及び、逃げずに我慢した者はしたり顔で、いよいよ鼻をのぼして高言を吐いた。しかし用心深い人はそれでも家には帰らなかった。

不思議な事もあるもので、今日●に寄った所、井戸水がさっぱり涸れる家があり、これを聞いた人々は、自宅の井戸も確認したところ、ある家は一尺二尺も減った家もあり、また別状ない家もあり、まちまちであった。そのため、井戸の変化も知らない人が多かった。自宅の井戸を見たところいつもと変わる事がなかった、また西側の庭の井戸を見れば、いつもの水かさよりも二尺低く、東隣の人が来て、我が家の井戸もいつもと変わらないと言う、後世の人はしっかりと参考にすべき。はや日も西に傾き、午後四時ごろ、また大地震があり、ことごとく崩れ落ち、土塀は見るうちにバタバタと手を返すように(倒れ)、或いは地が割れて水が噴出する所もあり、弱い家はすぐに倒れ、あるいは怪我人もおり、時々西方から上がる火が天を焦がさんばかりで、雷のような音がそこかしこで響き、(地を)引き裂くことが三・四度に及び、急に日光が朦朧として光を失い、あたかも日食のようであり、人々は恐れ驚き逃げ出そうとするばかりであった。午後六時になると、すわ高い波が立ち強い●があると、地が揺れて白い波が空に逆さまへ踊り上らんばかりに、潮畑雲のように散乱するものが非常に多く、数十丁も陸に上ったので、雨の際のようであり、人々は夢うつつかと途方に暮れ、周囲大かたならず、取るものも取りあえず、それおそあい、逃げろ逃げろと老いた人を背負い、幼い子を抱き、家が檜添あたりの人は烏の森通りを走り、西丁の人は段々走り出したのか、もうすでに川筋を上り、岸に満ちていく思い思いに足を

運ぶこそあり、早くも一番波が起ろうとすると、まず波が湯浅浦へ打ち上がり、それより全てを運び去り打ち返しの波は一目散に広の西へ激しく進み、また陸へ上っていった。

西の方から汐稀大道あたりに上がり、この波で浜辺の家は大方この様になった。これにより親は子を失い、子は親と離れ、夫婦兄弟は離れ離れになり、ある人は山に登って遠くへ逃げ、ようやく命拾いをした。やがて二番目の波にて死に至る者が数人、三番目の波で流される者はもっと多く、嘆き悲しみの声は山野に満ちた。我が家は地震が起きるとまず火を消し、蔵の扉を閉め、家は空けたまま、明王院へ逃げて老母と対面した。夢から覚めたような心地がして、互いに喜び合い、神仏にお参りし、いよいよ慎みてぞ入られた。

(つづく)

## 防災研修に御利用ください

広川町から認められた団体(補助を受けている団体)が防災研修を実施される場合、「稲むらの火の館」へ1年に1回無料で入っていただけます。ぜひ、ご来館ください。「館」も平成19年の開館から13年目になりました。この間、町内の皆様も見学に来ていただいていると思いますが、「世界津波の日」の制定、「日本遺産」の認定などにより館内の展示もリニューアルされています。また来年は「濱口梧陵生誕200年」を迎えます。こういう機会に今一度、見学して下さい。各団体の防災研修等、それぞれの目的に合ったプログラムの設定にも応じますので、ぜひご相談していただきたいと思っております。

## &lt;稲むらの火の館の紹介&gt;

濱口梧陵記念館/津波防災教育センター

〒643-0071 住所 和歌山県有田郡広川町広 671

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>

\*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

\*休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

(世界津波の日の11月5日は開館)

年末年始(12/29～1/4)

\*記念館だけの入場は無料です

